（対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業
・国際交流拠点形成事業）

事業名：阿波の先人を通じたふるさと学習プログラムの開発

事業者名：徳島県立博物館
住所：徳島県徳島市八万町向寺山　文化の森総合公園内
ＴＥＬ：088-668-3636
ＦＡＸ：088-668-7197
ＨＰアドレス：http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp

連携事業者名：徳島県立近代美術館、徳島県立鳥居記念博物館、徳島市富田小学校、鳥居龍蔵を語る会、徳島地方史研究会
会　　場：徳島県立博物館

１．館の使命と本事業の関係

当館の使命は「徳島の自然・歴史・文化の宝箱─県民とともに成長する博物館─」を基軸としている。これに即し、県民とともに、郷土の歴史・文化を学ぶプログラムを開発することで、県民のための学びの場を創り出すことを目指したのが、本事業である。

２．企画内容

①事業目的

ボランティア等と連携して地域に根差した活動を推進し、郷土の先人をテーマとした学習プログラムを開発することで、次世代育成に貢献することを目的とした。

②事業概要

ボランティアや関係機関・団体の協力を得ながら、人物を焦点化した学習プログラムの開発を進めた。

（１）守住貫魚（もりずみつらな：幕末から明治に活躍した日本画家）を学ぶプログラムの開発
- 企画展「生誕200年　守住貫魚」（10月17日～11月23日）を活用して行う人物学習
  …ワークシートの開発→ワークショップの実施

（２）鳥居龍蔵（とりいりゅうぞう：明治から昭和に活躍した人類学・民族学・考古学者）を学ぶプログラムの開発
- 学習テキストの作成→ワークショップ（野外見学会）の実施
- 体験キット（カメラ実験、ボードゲーム）の開発→ワークショップの実施

（３）常設展を活用した人物学習プログラムの開発
- 常設展に登場する人物に着目したワークシートの開発→ワークショップの実施

（４）情報発信
- ホームページの公開
  http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/2009kibanseibishienjigyo/

３．事業実績

（１）事業の主な内容及び日程

■守住貫魚を学ぶプログラムの開発

□ワークシートの作成…企画展「生誕200年　守住貫魚」にあわせて活用するためのワークシートを作成した。展示資料に関するクイズを主としたが、塗り絵や工作といった体験型の要素も盛り込んだ。想定した対象は小学６年生であったが、保護者等の支援があれば低学年の児童でも活用できるよう配慮した。

□ワークショップ「徳島の画家　かんぎょ先生のクイズにチャレンジ！」の開催…当初、11月15日・22日（日）に実施予定だったが、11月17日（火）に遠足来館団体を対象に実施し、さらに11月23日（月／祝）にも追加開催し、計４回実施した。なお、「かんぎょ先生」は、守住貫魚をキャラクター化したものである。

■鳥居龍蔵を学ぶプログラムの開発

□学習テキストと体験キットの作成…おもに小学６年生を対象として、テキスト『みんなで学ぼう！　鳥居龍蔵』を作成した。また、これと併用する前提で、体験キット『りゅうぞう君のアジア大旅行すごろく』（鳥居龍蔵の調査の軌跡をイメージしたもの。異文化理解にもつながるよう言語や民族衣装のカードも用いる）、『龍蔵先生の手づくりカメラ』（鳥居龍蔵が日本人の野外調査では初めてカメラを導入したことにちなみ、単レンズ箱型カメラを自作するもの）も作成した。

□ワークショップ「博物館Ｖキング」の開催（２月11日）…ボランティアと職員による大型協働イベント「博物館Ｖキング」を本事業に位置づけ、その中核的なコーナーとして上記のすごろくやカメラの体験コーナーを開設した。

□ワークショップ「わくわくスタディ鳥居龍蔵を知ろう！」の開催…第１回「鳥居龍蔵ふるさとウォーク」（２月21日）、第２回「鳥居龍蔵の世界をたいけん！　手づくりカメラ教室」（３月７日）を行った。第１回は徳島市街地の鳥居龍蔵ゆかりの地を見学するもの。第２回は鳥居龍蔵が使用したものと同形式のカメラを見たり、カメラの原理を学んだりした上で、カメラキットを組み立てるもの。

■常設展を活用した人物学習プログラムの開発

□ワークシートの作成…従来にない視点からの常設展の活用を意図し、人物を主題としたクイズ形式のワークシートを作成した。出題範囲は原始・古代から近世までで、設問には塗り絵のような体験的要素を盛り込んだ。想定した対象は小学６年生であったが、保護者等の支援があれば低学年の児童や幼児でも活用できるよう配慮した。

□ワークショップ「博物館Ｖキング」の開催（２月11日）…先述の「博物館Ｖキング」において、ワークシートの活用による「展示室人物クイズラリー」を行った。

■情報発信

当館WEBサイト内に、事業の様子を紹介するホームページを開設し、随時更新した。

博物館Ｖキング（カメラコーナー）

（２）参加者の数

参加者人数　　　延べ2,746 人

内　訳：徳島の画家　かんぎょ先生のクイズにチャレンジ！　176 人
（幼児 10 人、小学生 116 人 、一般 50 人）
博物館 Ｖキング　2,496 人
（幼児 700 人、小学生 895 人、中学生 53 人、高校生 2 人、一般 846 人）
わくわくスタディ鳥居龍蔵を知ろう！第１回　14 人（小学生 6 人、一般 8 人）
わくわくスタディ鳥居龍蔵を知ろう！第２回　60 人（小学生 25 人、一般 35 人）

（３）事業により作成した印刷物等

・ワークシート　徳島の画家　かんぎょ先生のクイズにチャレンジ！
・チラシ　徳島の画家　かんぎょ先生のクイズにチャレンジ！
・テキスト　みんなで学ぼう！　鳥居龍蔵
・キット　りゅうぞう君のアジア大旅行すごろく、龍蔵先生の手づくりカメラ
・ワークシート　常設展人物クイズラリー
・チラシ　博物館Ｖキング

（４）実施事業に関する新聞記事等

〇新聞記事

徳島新聞　平成 22 年 2 月 22 日　朝刊　社会面

鳥居龍蔵の業績
史跡を巡り学ぶ
徳島市でふるさとウオーク

徳島市出身の人類学者・鳥居龍蔵ゆかりの地を巡る「鳥居龍蔵ふるさとウオーク」（県立博物館主催）が21日、徳島市内で開かれた。親子連れら34人が参加し、鳥居の足跡をなぞり業績に思いを馳せた。

同館と県立鳥居記念博物館の学芸員、鳥居の親族の鳥居[illegible]さん([illegible])＝徳島市二軒屋町＝の案内で新町橋東公園を出発。鳥居の生誕地にある記念碑（東船場町）や、鳥居が発掘し県内考古学調査の先駆けとなった城山貝塚（徳島中央公園）など7カ所を歩いて回った。参加者はメモを取ったり質問をしたりして、興味深そうに学んでいた。

父親と参加した八万小5年の福田はるかさん(11)は「城山貝塚に興味がわいた。博物館で詳しく調べて、夏休みの自由研究にしたい」と話した。

４．事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

子どもにとって、土器づくりなど、原始・古代に関する体験を除くと、歴史はとかくむずかしく見られがちである。とくに歴史上の人物となると、いかに顕著な業績を挙げた者であっても、身近に感じてもらえることはほとんどない。当館でも歴史系展示、とくに人物を取り上げたものを行う場合、遠足を含めて子どもの観覧が少なくなる傾向にある。そのため、歴史や人物は「おとな向け」という扱いをしてしまってきたが、今回の事業では意識的に「壁」を乗り越える努力をしたつもりである。

その意味では、地域の先人をテーマとして子どもたちの学びにつなげようとした今回の取り組みは、当館としては今までにないものであり、新しい活動を展開していくためのきっかけをつくることができたといえる。また、事業の過程で、学校、研究団体、関係機関、ボランティアとの協働を進めることができ、有意義であった。

「鳥居龍蔵を学ぶプログラムの開発」については、当館の業務として開館準備を進めている徳島県立鳥居龍蔵記念博物館（平成 22 年 11 月開館予定）における普及活動のテストパターンとしても大いに成果があった。

各種のワークシートやキットを作成し、またそれらを活用するワークショップを展開してきたが、参加者からは歴史や人物を身近に感じることができたとか、面白さを感じることができたとかいう好意的な感想が多々寄せられたので、歴史や郷土の先人に親しむという入口づくりとしては成果があったということができるだろう。

とくに意外なほど好評だったのがカメラキットであり、「博物館Ｖキング」ではカメラコーナーに希望者が殺到して混乱をきたすほどだった。また、カメラ体験を取り上げた「わくわくスタディ　鳥居龍蔵を知ろう！」の第２回も応募者が多かった。組み立て・撮影を経験することと鳥居龍蔵について学ぶことをリンクさせたものであったが、歴史学習（鳥居龍蔵とその周辺についての学び）と光をテーマとした理科学習との融合を図ることのできるプログラムとして、今後、効果的に活かしていけるのではないかと考える。

以上のように、事業により得たものは多かったが、一方でワークショップ参加者らはワークシートやキットをこなすことだけが目的化しがちであり、歴史や先人についての学びを深めていくための次のステップをプログラム化していくことに時間をかけることができなかったのは、大きな反省点である。

また、日常的な利用状況から、ワークショップ参加者は低学年の児童や幼児が多いことが予想できたが、歴史についての知識等の条件が整わないこと、作成にかけられる時間や対応人員等を考慮して、小学６年生に照準をあわせてワークシートやキット等を作成した。ただし、高度な知識や技術を要求せず、低学年の児童や幼児には保護者等のサポートがあれば十分こなせるものとなるよう努めた。それでも、「むずかしい」という声もあったので、今後は発達段階を考慮しながら、小さい子どもにも歴史に親しめるような回路づくりに取り組むことも課題となる。